

漁業者によるサキグロタマツメタの駆除効果

福島県水産資源研究所 資源増殖部

部門名 水産業－その他－アサリ

担当者 佐藤利幸

I 新技術の解説

1 要旨

サキグロタマツメタはアサリ等の二枚貝を捕食する外来種の巻貝である(図1)。福島県相馬市に位置する松川浦で本種の生息が確認された2004年から漁業者が駆除活動を実施しており、アサリへの食害防止に努めている。駆除の効果を検証するため、2004年から2025年までの成貝及び卵塊の駆除量、CPUE(kg/人)の動向、成貝の殻高及び卵塊の外径の変化を整理した。

駆除量は2018年以降減少、かつ低位で推移し、CPUEも同様に低位で推移していた。また、成貝、卵塊とも小型化しており、秋季に産卵行動する大型の成貝及び大型の卵塊の割合は2010年より低下していた。これらは駆除の効果を示しており、継続した取組が有効と考えられた。

(1) 成貝の駆除量は、2014年以降増加傾向で2017年には341kgに達した。2018年から減少に転じ、2025年には32.1kgまで減少した。卵塊の駆除量は、2015年から急増し2017年には3,191kgに達した。2018年から減少に転じ、2025年には120kgであった(図2)。

(2) 成貝のCPUEは2017年の1.9kg/人から2025年の0.2kg/人まで減少した。卵塊のCPUEは2017年に18.4kg/人に達したが、翌年から減少し2025年で0.9kg/人であった(図3)。

(3) 成貝の殻高組成では、殻高35mm以上の占める割合は2010年で53.6%を占めた。駆除を再開した2014年で26.3%、2017年には61.3%を占めたが、2018年以降、同サイズの割合は低下し2025年には5.1%となった(図4)。卵塊の外径組成では、2010年で外径105mm以上の占める割合は37.9%であった。駆除を再開した2012年で27.9%、2017年には88.7%を占めた。2018年以降、同サイズの割合は低下し、2025年には2.2%となった(図5)。

2 期待される効果

松川浦の漁業関係者に駆除の効果を数値で示すことで、駆除の重要性を再認識し、今後の活動の方向性や活動継続に貢献できる。

3 適用範囲

松川浦の漁業関係者、水産行政関係機関

4 普及上の留意点

成貝、卵塊とも駆除量は減少しているが、小型個体についても継続した駆除が重要である。

II 具体的データ等



図1 サキグロタマツメタ (左：成貝、中央：卵塊) と捕食されたアサリ (右)

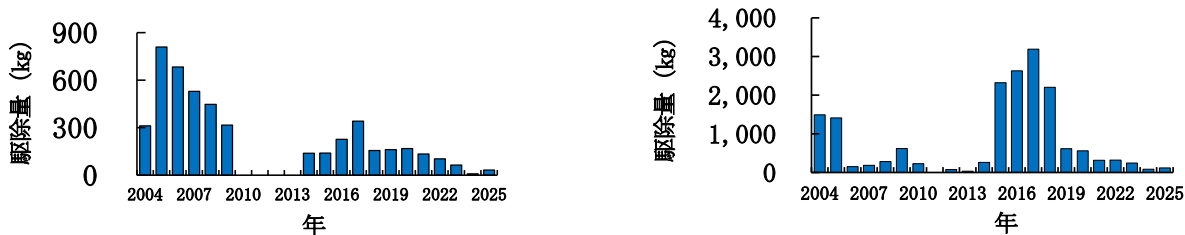


図2 駆除量の推移 (左：成貝、右：卵塊)

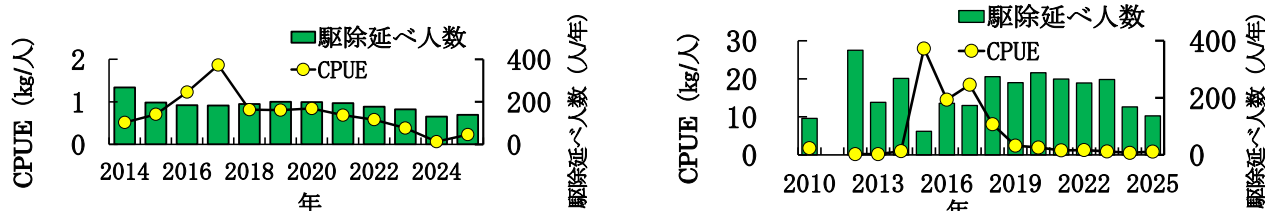


図3 CPUEの推移 (左：成貝、右：卵塊)

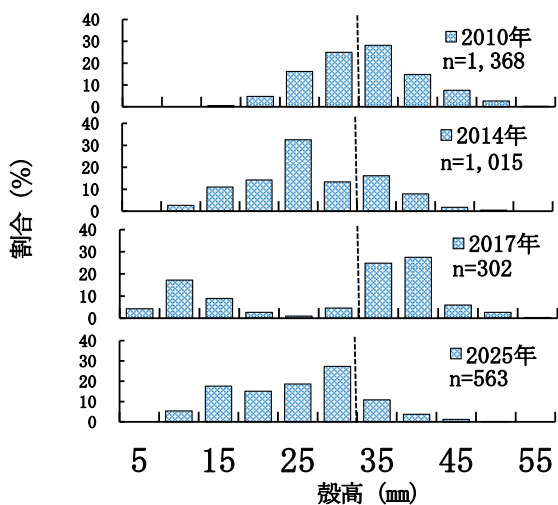


図4 成貝の殻高組成の推移

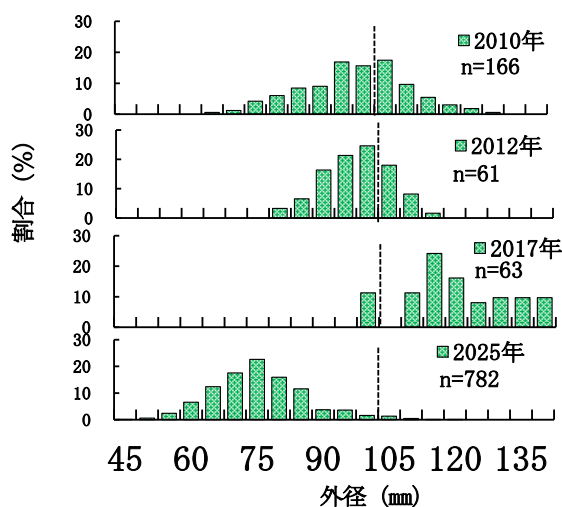


図5 卵塊の外径組成の推移

III その他

縦線は2010年における成貝の殻高モード

縦線は2010年における卵塊の外径モード

1 執筆者

佐藤利幸

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～令和7年度

(2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

3 主な参考文献・資料

なし。